

## 高橋鉄美主任研究員

その研究は、妻の一言がきっかけでした。「この魚、どうしてコブがあるの？」



私は、アフリカ・タンガニカ湖に生息するシクリッド科魚類を研究しています。このグループには、さまざまな形をした200種ほどが含まれます。妻はこれらの写真を見ていて、ある種に目を留めました。キフォティラピア・ギベローサという種で、額にコブがあります。それで、冒頭の疑問になったのです。確かに、どうしてコブがあるのだろうか？

文献を調べたところ、額にコブのある魚はサケ科やコイ科など少なくとも9科にまたがり、種によってコブの機能が違うそうです。

例えば、マイダス・シクリッドという種では、コブの有無で互いに性別を識別していると考えられています。またコイ科のある種では、コブによって体高が高くなるので、物理的に捕食されにくくなるようです。しかし、ギベローサに関する情報は見当たりませんでした。そこで、自分で調べることになりました。

ギベローサには、研究をする上で都合の良い特徴があります。湖沿岸で食用とされており、漁獲量が多いということです。このため、市場に行けば簡単に手に入ります。この点を生かし、多くの個体の形態を測定して機能を推測しました。その結果、主に二つのこと



特徴的なコブ

が分かりました。

一つ目は、オスとメスの両方にコブがあるということです。このことは、コブが種認識と関係することを示唆しています。ギベローサの生息する場所では、他に大きなコブを持つ種がないので、ギベローサ同士がコブの存在によって互いに同種であると認識できる

のです。

二つ目は、一般に体が大きくなるとコブが変形していく（前方に突出していく）のですが、メスではある体サイズに達するとコブの変形が止まる、ということでした。

このことは、コブがメスを見分ける特徴となっている可能性を示しています。メスとして理想的なコブの形があるとすれば、突出具合がそれ以上でもそれ以下でも「メスらしさ」が減少するので、適度な突出具合で変形が止まると考えられます。一方オスでは、成長によってコブは変形し続けます。コブに脂肪を蓄えて徐々に突出させることで、「オスらしさ」を増しているのかもしれない。

妻の一言で始まったこの研究は、その後、学会誌から出版することができました。ねたが意外なところで見つかることもあるので、常に研究を意識していることが重要と思った出来事でした。

## ひとはく 研究員 だより

### 9科の魚類

# 奥深い「コブ」のはなし